

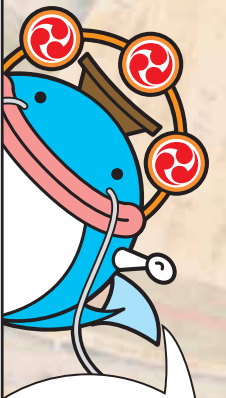
利根川・渡良瀬川合流域の水場景観

文化的景観とは、人々の生活や風土に深く結びつき、人の営みとともに作ってきた地域特有の風景といえます。文化財の一つであり、重要な景観地は、国の重要文化的景観として選定されます。これまでに選定された景観地は、近江八幡市や四万十川など24カ所があります。関東地方では、板倉町が第一号に選定されました。

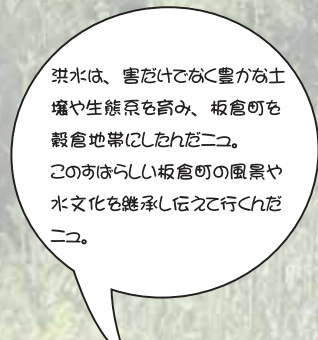
概要

板倉町には、利根川と渡良瀬川との合流点に形成された低湿地が展開しており、水場と称されています。古来よりオオミズが多い地域であり害と益を受けながら、生活を営むための様々な工夫が行われてきました。自然堤防上に造られた沼除堤や水防建築の「水塚」、低地農法としての「川田」、薪をとるための「柳山」などです。中世末期から近世（約400年前）にかけて造られた囲堤（かこいづつみ）や流路変更などの大規模な治水事業や水利システムによって、現在の穀倉地帯が形成されてきた歴史があります。現在は、豊かな生態系が育まれ極めて良好な保全状態となっています。

※オオミズ：昔のひとは、河川の氾濫を水害と言わず「オオミズ」と称しました。氾濫により土壤に栄養分が行き渡り次の年が豊作となったことなど、洪水が害だけをもたらすものではなく利益も与えてくれるものと考えていたようです。



昔の板倉町は、利根川と渡良瀬川の合流部だったので、水害に悩まされてきたけど、昔の人はそれを受け入れ様々な工夫や知恵を生み出して共生したんだ。



洪水は、害だけでなく豊かな土壌や生態系を育み、板倉町を穀倉地帯にしたんだ。このあはらしい板倉町の風景や水文化も継承し伝えて行きたい。

対象地区

板倉町の水場景観の軸となる河川・河川跡などの6地区です。6地区は、板倉町の治水の歴史や構造を今に伝え、「水場」に根付いた生活文化を継承するうえで重要な地域です。

渡良瀬川地区



雷電神社周辺地区



渡良瀬遊水地地区



谷田川地区



利根川地区



古利根地区

